令和２年度　第１回環境審議会議事録（議事要旨）

令和２年度第１回環境審議会は、新型コロナウイルスの感染予防のため、対面式会議を開催せず、書面のやりとりを通して意見と回答を交換する形の会議（書面会議）として開催した。

１　会議の流れ

資料送付　　令和２年４月 10 日（金）
意見提出期間　令和２年４月 10 日（金）～５月１日（金）
議事録案作成　令和２年５月 14 日（木）

２　意見提出委員

奥会長、宮川副会長、石川委員、今福委員、佐野委員、島野委員、横谷委員、志々目委員、中川委員、浜島委員、青木委員、荒谷委員、大塚委員、東郷委員、菊間委員

３　議　題

（１）次期計画策定の流れ及び今後の進め方について
（２）現行計画（第２次計画）の進捗評価について
（３）策定における要点整理及び次期計画の方向性検討について
（４）温室効果ガス排出量の検証結果について
（５）令和元年版 浦安市第２次環境基本計画年次報告書及び概要版について

議事（１）次期計画策定の流れ及び今後の進め方について（資料１）

	意見・質問等	回答
1	２ページに「環境審議会及び庁議・庁内検討委員会等の外部・内部の会議を中心として」とあるが、環境審議会は市長の諮問機関であるため、厳密には「外部」の会議体ではない。	ご指摘のとおり、「外部・内部」という表現は修正します。
2	次期計画策定という「次期」という表現が多用されているが、初めて読む人への配慮として、「第３次環境基本計画」が望ましいと思う。また、「第３次環境基本計画」は長いため、資料冒頭で、以下●●と表記とすればよい。	次回以降の資料及び計画本文においては、ご指摘のような表記で作成します。
3	「課題・策定の方向性」という表現が２箇所あり、「策定の方向性」は理解できるが、「課題の方向性」に違和感を覚えた。	「課題、策定の方向性」と分けて表記すべきところでしたので、修正します。
4	今後の状況の推移によっては、計画策定に向けた検討を大幅に後ろ倒しにせざるを得ないかと思うが、現時点では進め方を了解した。	新型コロナウイルスへの対応など、社会が大きく変化している状況ではありますが、現状では今年度中の策定を予定しています。

議事（２）現行計画（第２次計画）の進捗評価について（資料２）

	意見・質問等	回答
1	精緻に現行計画のもとでの成果と課題が分析・評価されていて、とても分かり易く整理されていると思う。	今後、現行計画の課題点等をもとに次期計画を策定していきます。
2	事業の実施状況の定性的評価は、「×」評価の項目に対して、「関連する事業を全く実施していない理由」を明記すると、評価結果がより分かりやすくなる。	次期計画の報告書の取りまとめ段階において、ご指摘の点を踏まえて精査していきたいと考えています。
3	西暦と元号表示が混じっているので、どちらかに統一してほしい。	次回以降の資料及び計画本文においては、西暦と元号を併記して記載します。 例）令和２年度（2020 年度）
4	「施策の方向」という表現が理解しづらく、「施策」と言いきれるのであれば言いきってよいのではないか。	「施策の方向」という表現は、第２次環境基本計画で使用しており、「施策の方向」と、さらに具体的な「施策」を体系として掲げています。第３次環境基本計画においては、わかりやすい文章や単語を使用していきたいと考えています。
5	５ページ左下、「大気に関する公害苦情件数」と８ ページ左下、「市へ寄せられる公害苦情の件数」のその他（大気、水質等）では、数字の整合が取れていないのではないか。	グラフが少しわかりにくいですが、８ページにおける「大気、水質等の公害苦情件数」の推移は、2014 年から 13,12,14,21,14 を示した線で表しており、５ページで示した大気に関する件数に加え、水質やそれ以外の件数を足したものです。
6	大気に関する公害苦情件数はＢ評価となっており、５年平均７で基準年下廻っているが、Ａ評価とならないのは何故か。	今回の進捗評価の基準として、概ね目標通りに進捗している場合はＢ評価としています。大気に関する公害苦情件数については、増減はあるものの目標値付近を推移していることから、概ね目標通りに進捗していると判断し、Ｂ評価としています。
7	公用車の低公害車導入件数グラフの目標値が実線になっているが、点線ではないか。公用車の低公害車導入件数グラフにある数値とハイブリッド車１台との関係が分からない。	目標値は点線で表記しているため修正します。低公害車は、ハイブリッド車だけでなく、低公害の基準をクリアしている車を指していることから、実施状況の説明文を「低公害車の導入状況」に修正します。 また、ハイブリッド車の導入については価格との関係で導入が進んでいない状況ですが、平成 30 年度末時点で全 200 台中 13 台（ハイブリッド車、プラグインハイブリッド車の合計）です。なお資料における１台とは、直近の実施状況として平成 26 年度にハイブリッド車を１台導入したということを表しています。
8	浦安市の公用車はハイブリッド１台だけしか導入していないのか。	

議事（２）現行計画（第２次計画）の進捗評価について（資料２）

	意見・質問等	回答
9	直近の実施状況のところでハイブリッド自動車1 台導入とあるが、直近のイメージとしては古さを感じた。総合評価欄に登場する環境基準に唐突感を覚えた。	低公害車の普及促進における評価が「△」「×」となったため、総合評価欄の説明で記載していますが、より丁寧な説明文に修正します
10	P4 で、一番下の道路補修等事業の直近の実施状況に「車道部の排水性舗装については未実施」というのは、車道部を排水性舗装にする計画のことか。「車道部の排水性舗装化は未実施」と修正してはどうか。また、ヒートアイランド対策として保水性舗装や遮熱性舗装を進めているところもあり、排水性舗装が適当かの検討が必要である。	ご指摘のとおり修正します。 なお、保水性舗装や遮熱性舗装については、将来的な導入を含めて担当課と調整のうえ検討していきます。
11	P10 で、保存樹木指定事業とあるが、今後、現在の約 600 本の指定樹木から、浦安の樹木100 選を市民投票で選ぶなどを行い、そうした取組みを契機として、市内の樹木に関心を持ってもらい、より身近に感じ、大切にしていく意識を醸成するような事業も検討するとよい。	計画の施策事業の検討の際に参考にさせていただきます。
12	第２次基本計画の評価では、公園面積を評価基準に置いているが、今後は別の指標が良いと思う。今後、公園面積は増やすことも難しいし、すでに十分なエリアを確保できているのでは。例えば、樹木数、公園の遊具設備、遊歩道距離等が考えられる。	今後策定予定の新たな緑の基本計画と整合を図りながら、指標や取り組みを検討していきたいと考えています。
13	P10 の緑の施策ですが、人口増に伴い、公園等の面積の目標値との乖離が広がっているように思われます。公園等の整備を促進することに加え、「緑の基本計画」に掲げる緑被率や緑視率の増加への具体の取組があるのでしょうか。	
14	P9 の水辺・三番瀬に関する講座・イベントの参加者数について、三番瀬環境観察館がオープンしたことも考慮して、次期計画では基準年に拘らず高い目標値を掲げてはいかがか。	次期計画においては、三番瀬環境学習施設等における講座やイベントの参加者数だけでなく、オンライン講座の開催等の視点を含めた目標値を設定していきたいと考えています。

議事（２）現行計画（第２次計画）の進捗評価について（資料２）

	意見・質問等	回答
15	P16 の廃棄物では、事業系ごみの排出削減が進んでいない。多量排出事業者への立入調査が年20 事業所だが、多量排出事業者の総数はどのくらいか。また、事業系ごみの減量に顕著な実績をあげている事業者への顕彰制度はあるのか。	多量排出事業者については、平成 30 年度時点で 67 社です。現状では顕彰制度は設けていませんが、事業系ごみの減量につながる取り組みを検討していきたいと考えています。
16	水質改善の総合評価と事業評価の〇△等の整合性について、②下水道施設の整備と適正な管理において全て〇であり、総合評価では未達成が見られる。下水道整備率が主な要因かと思うが、個別施策との評価だけを見ると違和感がある。また、高い目標設定が未達要因という表現はよくないのではないか。	ご指摘のとおり、個別事業の評価と総合評価の整合が取れていないことから、総合評価の内容を修正するとともに、目標値の設定について担当課と調整していきたいと考えています。
17	水辺空間の創出の参加人数、実施回数等については、出来るだけ数値を明記して欲しい。	今後の資料においては数値を明記します。
18	生活空間の創出の外部要因、総合評価の記載において、「市の人口増加により…」ではなく、「当初設定していた人口推計を上回る人口伸び率により…」ということではないか。	ご指摘のとおり、人口増加の伸び率と記載するところでしたので修正します。
19	環境を大切にする人づくりの各種グラフの(回)(人)は間違っているのではないか。	「市民大学（環境講座）受講者数」と「公民館・郷土博物館における環境学習講座の参加者数」のグラフは（回）ではなく、（人）に修正します。
20	P6 のグラフの表題：「水素イオン濃度指数」は「水素イオン濃度」ではないか。P8 の一番下のグラフ「市へ寄せられる公害苦情の件数」は、5 項目を示しているため、他と同様に色分けした方が分かりやすい。P8 の表の下の②ウ）の「科学物質」は、「化学物質」でないか。P19 の表の「微小流粒子状物質」は「微小粒子状物質」ではないか。	一般的には「水素イオン濃度」「水素イオン濃度指数」のどちらの表記も使用されますが、今後は環境省の表記に合わせて「水素イオン濃度」に修正します。 その他の点について、ご指摘のとおり修正します。
21	省エネルギー行動の推進の上段グラフセンターの「前」とはどういうことか。市事務事業とは、浦安市の一般事務ということか。	「前」については、「H28 以前」の「前」が改行されてしまったことによるもので、修正します。「市の事務事業」とは、市が行う事務や事業全般という意味であり、計画本文においては注釈を入れるなどの工夫をしていきたいと考えています。

議事（３）策定における要点整理及び次期計画の方向性検討について（資料３）

	意見・質問等	回答
1	大気汚染は、市民アンケートでの満足度はあまり高くない一方、大気環境の評価等から整理された結果では、A-となっており、結果に差異があると感じた。今後の評価指標の選定等にあたっては、環境基準による数値評価以外の方法も十分検討していく必要があるのではないか。	施策の進捗状況の把握方法については、現行計画から見直す必要があると考えており、環境指標による評価に加え、市民意識調査の結果も含めた指標の設定についても検討していきます。
2	市内のアンケート結果について、「大気や水質等の維持・向上について広域的な連携強化」は、「大気」と「水質」で、項目を分けた方がいいのではないか。また、連携強化は、重要度が最も低くなっているので、連携の意義や効果について少し丁寧に記述した方がよい。	計画においては、「大気」「水質」の項目は分けて記載する方向で考えています。今後の検討事項となりますが、計画骨子においては、「生活環境の保全」を大きな枠組みとし、その中に「大気」「水質」「騒音」などの各項目について記載しようと考えています。
3	大気や水質等の向上について広域連携強化は良いと思う。特に浦安市は県境にあり、近隣として江戸川区なども視野に入れる必要があるのでは、県レベルの行政が違うので、難しさはあると思うが検討してほしい。	河川の保全に関しては、江戸川流域の自治体で「江戸川を守る会」を組織して、広域的に活動していますが、その他の分野においても江戸川区を含めた近隣自治体と連携した取り組みをさらに推進していく必要があると考えています。
4	SDGs の 17 のゴールと政策・施策の方向性との関係性・結びつきを新たに提示するという点について、17 のゴール全部の関係性・結びつきを提示するのか。環境と関連が深いゴールのみでよいのではないか。	SDGs の全てのゴールに関する施策を提示するのではなく、本計画に関わる分野に関連するゴールについて提示していきます。 施策事業については、169 のターゲットの関連性を示していきたいと考えています。
5	SDGs の 17 のゴールと施策・その方向性との関係性・結びつきを新たに提示するというのは良いが、そのゴールと紐づけられるのかを見極めるにあたっては、その下にぶら下がる 169 のターゲットのどれに具体的な事業が関連してくるのかを整理する必要がある。	
6	SDGs そのものの認知度はまだ低いと思われるので基本計画の中で説明する必要があると思う。	SDGs との関連について、計画の中でどのように示していくかは今後の検討課題ですが、コラム等で SDGs の説明を入れるなどの工夫をしていきたいと考えています。
7	SDGs の視点だけでなく、環境教育としても ESD という視点を取り入れていくようなことも必要に思う。	SDGs と ESD との関係は様々な意見がありますが、SDGs によって ESD の目標が整理されたと捉えると、環境教育で SDGs の視点を入れることで、自ずと ESD の視点も入ってくるものと考えております。

議事（３）策定における要点整理及び次期計画の方向性検討について（資料３）

	意見・質問等	回答
8	生物多様性保全に関して、どの程度まで浸透させるという具体的な目標は設定するのか。例えば、JHEP（ハビタット評価認証制度）のような、生物多様性を評価する制度を取り入れることが考えられるのではないか。	市としては、三番瀬環境観察館を活用した市民への生物多様性の啓発が主な取組になると考えています。（公財）日本生態系協会が実施しているＪＨＥＰ（ハビタット評価認証制度）のような制度については、市が制度を設けるのではなく、事業者に対する周知を図っていきたいと考えています。
9	水と緑の分野に「生物多様性」の視点を新たに一体化とあり、具体的な施策として三番瀬観察館の施設拡充、例えばビオトープ、ミニ里山なども検討したらよいのではと思う。また、観察館を生物多様性の啓発拠点として整備していくなども検討すべき課題だと思う。	三番瀬環境観察館を中心に浦安の特徴を活かした環境学習や啓発などの取り組みを行っていきたいと考えていますが、生物多様性との関連で、どのような取り組みを行っていくかは検討していく必要があり、ご意見を参考にさせていただきます。
10	三番瀬の環境観察館は大変優れた取り組みなので，最寄の駅等からここにアクセスするための工夫（たとえば小型電気自動車等を利用）等についても今後検討すると良い。	コンパクトな市域を活かし、さらなる公共交通機関網の充実を促進していくとともに、環境に配慮した移動手段についても、その可能性について検討していきたいと考えています。
11	市内には三番瀬を筆頭に生きものの生息空間の保全が求められる場所が多く存在しており、生物多様性への理解を浸透させるため、すでに実施されている生物現況調査に併せ、「生物多様性地域戦略」を策定しないのか。	生物多様性の視点については、次期計画で初めて盛り込むことを検討しています。まずは環境に関する基本的な計画である本計画で記載し、状況に応じてより具体的な計画や方針等の策定について、検討していきたいと考えています。
12	「ナッジ理論を活用した環境イベント等の新たな普及啓発等の仕組みづくり」とあるが、具体的なイメージを含めた説明が欲しい。	人々に選択肢を与え、自由な意思決定を前提としたうえで、正しい選択や行動をするように誘導する手法です。言い方を変えれば、「より良い選択を促す」ための手法であり、例えば家庭の電気使用量のレポートを送る際に、「一般的な家庭に比べ〇％使用が増加しています。」のような文言を加えることで、人々に環境配慮に向けた行動を促すなどの取り組みが考えられます。ただし、場合によっては誤解を招く手法でもあると考えており、具体的な取り組みを検討する際は注意が必要であると考えています。

議事（３）策定における要点整理及び次期計画の方向性検討について（資料３）

	意見・質問等	回答
13	市民事業者への環境意識向上の取り組みとして、ナッジを活用した環境イベント等を新たに検討されるということは非常に良い視点である。環境基本計画は、抽象的な記述が多く，市民が読みにくくなる傾向があるので、市民・事業者が興味深く実践できる内容をたくさん盛り込んでいただく工夫はぜひ実施してほしい。	ナッジ理論の活用については、環境フェアや市民まつり等において実証実験を行っていきたいと考えています。また、計画における記載方法についても今後検討していきます。
14	ナッジを活用することはとても効率的だと思うが、出来ればその前段に市が自ら強くアピールするような文言を入れてほしい。	ナッジ理論を活用した啓発は、市民や事業所に対する環境意識の向上ための有効な手段の一つと考えておりますが、ご指摘のとおり、その前提として市民一人ひとりの行動意識の変容につながる取り組みを行っていきたいと思います。
15	「事業者等との連携・協働によるさらなる環境教育、環境イベント、環境活動等の検討」について、環境教育を社会貢献活動と位置付け実施している事業者もあるので、市民向けの普及啓発等の取り組みとして活用できると考える。弊社でも、小学生向けの次世代教育（出張事業）として、エコはがき作りやエコクッキングのプログラムがあり、環境教育のひとつとして活用いただくことも可能である。	現在も事業者や地域の団体等と連携した環境教育の場は実施しておりますが、今後も様々な企業や団体と連携を図っていきたいと考えています。 また、環境施策の実施においては、行政だけの取り組みでは成果を上げることは難しいことから、現行計画同様、「市（行政）」「市民」「事業者等」の役割を明確にするなど、どの立場の方が見てもわかりやすい計画にしていきたいと考えています。
16	環境教育は目新しければ人が集まりやすいが、回を重ねるとリピーターが増え、初めての人が参加しにくくなることも多々あることから、参加者が減り始めたイベントや講演等は一旦終了させ、リニューアルして再開させる等の工夫が必要だと思う。	環境に関するイベントにおいては、まず市民に関心を持ってもらうことが大切であることから、その時々で社会の関心がある内容を取り入れるなど、工夫しながら行っていきたいと考えています。
17	環境教育・環境イベントも一部はオンライン化を試みてもいいと思う。	環境に関する学習については、オンラインでのコンテンツ配信等、今後の ICT 技術等の発展を捉えながら、時代に即した方法を取り入れていきたいと考えています。

議事（３）策定における要点整理及び次期計画の方向性検討について（資料３）

	意見・質問等	回答
18	地球温暖化防止等の取組は、市民は直接関与している実感は持ち難いため、環境が身近に感じられる場づくりは大切である。一つの案として、「クリーンアップ（共同清掃）を柱としたイベント」を、これまで以上に充実、継続することが考えられる。例えば、三番瀬クリーンアップを通じて、きれいになった水辺空間を実感できると共に、マイクロプラスチック問題やごみの分別、生物の多様性などを考える機会になる。	市民一人ひとりが環境問題に意識を向ける機会として、クリーンアップイベントはとても有効であり、今後の参考にさせていただきます。 また、マイクロプラスチックの問題については、団体と協力しながらＰＲ方法等の検討をしていきたいと考えています。
19	循環型社会の分野で「浦安市一般廃棄物処理基本計画」との整合は良いと思う。食品ロス、プラスチックごみなどの対応も廃棄物処理基本計画との一体化がなされるとさらに良いのではと思う。	「浦安市一般廃棄物処理基本計画」では、食品ロスやプラスチックゴミに対する具体的な取り組みは示していませんが、今回の計画策定で取り組みの方向性を示していきたいと考えています。。
20	参考資料２で、一般廃棄物、家庭系ごみは削減できていると記載されており、次期計画における視点・方向性には「ごみの減量化」に関する記載がない。人口１人当たりのごみ発生量が、浦安市より少ない都市も多くあり、減量化は継続してほしい。	ごみの減量化に関しては、資料３において「循環型社会の分野は「浦安市一般廃棄物処理基本計画」と整合」というかたちで記載しており、一般廃棄物処理基本計画に基づいた取り組みを推進していきたいと考えています。
21	資源回収事業団体として資源回収活動をして気づいたが、燃えるごみには、生ごみ、プラスチック製品の他に資源ゴミとして回収できる雑紙が混入されている。雑紙は資源回収の対象であることを市民へ周知すれば、家庭ごみの削減になると思う。	市では資源回収活動を支援していることもあり、担当課（ごみゼロ課）と協議のうえ周知を図っていきたいと考えています。
22	テイクアウト用の容器がプラスチックであることが多く、海洋プラスチックごみ対策も兼ね、市内で販売する食材容器は紙製品使用を検討してほしい。	プラスチックゴミの問題については、次期計画においても検討すべきことであり、参考にさせていただきます。
23	ZEB や卒 FIT・脱 FIT、ナッジ理論等の一般的でない用語がある。表の下に、簡単な解説が必要である。	ご指摘のとおり、市民にもわかりやすい計画となるよう、計画本文においては、なるべく一般的な用語や言い回しとなるよう注意するとともに、説明が必要な用語については注釈を入れます。

議事（３）策定における要点整理及び次期計画の方向性検討について（資料３）

	意見・質問等	回答
24	参考資料３の P47 の「庭やベランダ、生垣など、緑で緑を増やす工夫をしている」では、官公舎、社宅、寮では、いつも行っているが 3.6%と非常に低い。入居者が自ら行うことは様々な制約があると考えられることから、市が管理者等に働きかけることも検討すべきと思う。	建築物における緑化整備の基準については、条例（浦安市宅地開発事業等に関する条例）及び施行規則によって定められているところですが、設置者にどのように働きかけるかは今後の課題として検討していきたいと考えています。
25	市民アンケートの結果では、温室効果ガスの削減よりも気候変動への適応に対する興味が高いようである。温室効果ガスの削減は、現在示している方向で対応を進めていくことが重要である。一方、適応策は、例えば緑化を生かした熱中症対策など水辺緑空間の創出等とも連携して計画を進めることを検討してはどうか。	近年の気候変動に伴う影響に対する適応策については、市民の関心の高さも踏まえ、感染症対策担当課や危機管理課、みどり公園課など関係各課と調整するとともに、今年度策定中の都市マスタープランとも整合を図っていきたいと考えています。
26	低炭素社会の分野に「気候変動への適応」の視点を取り入れ、浦安市における気候変動の影響に関する調査・分析を行うのは良い。都市水害、熱中症、感染症等の必要な対応策は、防災や健康など市の他部門との横断的な取り組みも視点として取り上げておいた方が良いと思う。	
27	気候変動の影響による感染症には、蚊を媒体とするデング熱感染症が問題になっている。公園・緑地の創出と共に蚊が大量発生しないような対策をするなど、感染症対策についてもセットで記述した方がよい。	
28	家庭における省エネで集合住宅向けの省エネルギー支援を入れたのは多くの住民がマンションに住んでいることから大変良いと思う。ZEB モデルの構築とともに環境に配慮した電力調達を挙げられたのは、低炭素化において個人での省エネ活動よりも大きな成果につなげられるので良い方向性と思う。再生可能エネルギーのポテンシャルの高い地域との連携の施策などと連携するとよりよい成果が得らえるのではと思う。	ゼロカーボンシティを表明している横浜市などは、再エネポテンシャルの高い自治体と広域連携に取り組んでいる例があります。再エネのポテンシャルが低い都市部に位置する本市おいても、どのような方策が有効か検討していく必要があると考えています。

議事（３）策定における要点整理及び次期計画の方向性検討について（資料３）

	意見・質問等	回答
29	参考資料３のP52～54の５．省エネルギー・再生可能エネルギー設備などの利用状況について、「E．集合住宅だから」の選択肢は、「借家、官公舎、社宅、寮などのため、設置工事をできないから」などが適切ではないか。 今後同様な調査を行う場合は、適切な選択枝の検討をしてほしい。	ご指摘のとおり、次回以降の調査においては、選択肢がより実態と合うように設定していきます。
30	排出削減目標の設定では現状のデータを正確に把握することが大事である。特に家庭部門では電気、ガス、ガソリン、軽油の使用量が大きなファクターとなる。TEPCO、京葉ガス等のエネルギー供給会社、市内ガソリンスタンドの協力が必要だと思う。	家庭部門の温室効果ガス排出量については、千葉県のエネルギー消費量を世帯数で按分する算出方法です。電気・都市ガスの小売り自由化に伴って全ての販売量を事業者から把握することが困難ではありますが、より意味のある目標設定のため、現状把握が必要であると考えています。
31	水素社会実現のための導入支援が、第３次基本計画の期間では検討レベルということはその通りだと思う。電気自動車のための配電設備への支援の実施なども検討すべきではないか。	水素社会に向けた取り組みは、徐々に進んできておりますが、現状では広く浸透しているとは言えない状況です。しかし、計画期間内では確実に普及していくことが想定されるため、状況に応じた取り組みを行っていく必要があると考えています。
32	水素社会実現のための水素エネルギーの関連設備の導入支援等については具体的に何か考えているのか。最近、国内外において水素エネルギーの活用が重要視されてきており、政策としては良い。国の2030年の排出量削減目標達成のための対策として、今後クローズアップされてくるものと考えているが、コスト削減等解決すべき課題も残っている。	現状実施している市民への家庭用燃料電池（エネファーム）の導入促進や、燃料電池車を含む次世代自動車の普及啓発等の施策・事業を継続・拡大することを想定しています。 また、国や県、隣接自治体の最新動向をみながら、適宜追加的な方策も検討したいと考えています。
33	ヒートアイランド対策として、道路の透水性舗装や打ち水、緑のカーテン、緑化の促進などの施策が進められているが、効果的に施策を実施するには市内の熱環境の把握が必要である。市内にいくつかの観測点を設け、熱環境の調査をしてみてはどうか。	ご指摘のとおり、施策の効果を測る指標については、より実態に合わせた方法で行う必要があると考えており、熱環境の調査を含めて方法を検討していきたいと考えています。
34	森林活用について、市内における木材活用を増やすとともに、「浦安市民の森」など市外の森の森林整備による木材の活用を進めて欲しい。	市外の森林整備により木材の活用等については、今後施策を検討する際に参考にさせていただきたいと考えています。
35	市の将来の開発動向によっては、市独自の環境アセスメント制度の検討が必要になるのではないか。	市の開発状況には終盤を迎えていますが、市として新たな制度を創設するか否かは今後の状況により検討していきたいと考えています。

議事（３）策定における要点整理及び次期計画の方向性検討について（資料３）

	意見・質問等	回答
36	「地域循環共生圏」、「広域的な連携強化」、「再生可能エネルギーのポテンシャルの高い地域（自治体）との連携」といった視点が明確に示されている点は重要で、高く評価できるが、どのように具体化していくのかが問われることになる。具体的な対応策の検討に向けて、先進事例や環境省・経産省のモデル事業等の調査を進めてほしい。	ご指摘のとおり、具体的な対応策は課題となっているところで、他の事例を参考に検討していきたいと考えています。
37	計画の目玉となる重点プロジェクトにおいて地域循環共生圏の視点を取り入れるのは良いと思う。重点プロジェクトとして具体的なものはこれから設定されると思うが交通システム、災害、健康、など今まで環境行政の範疇を超えたものも包含している。プロジェクトの範囲、他の組織との連携、調整が課題となるのではないか。	環境分野は範囲が広く、庁内の関係各課との連携はもとより、様々な組織や団体とも連携・協力が必要であると考えており、それらを考慮したうえで重点プロジェクトを設定していきたいと考えています。
38	資料２の総合評価で明確にされた課題解決を受けて、具体的な対応策を示すものになっているとともに、社会状況の変化に応じた新たな課題を踏まえた内容になっていると思う。	今後、施策の方向性を軸に、委員の皆様のご意見を踏まえて計画骨子を策定していきます。
39	「環境基準等に拘ることのない、市域全体に渡る成果を継続的・安定的に測ることのできる新たな管理指標の設定」とある。特に継続的・安定的ということは良い視点であり、期待したい。	今後検討する施策の進捗把握手段として、継続的・安定的に把握・管理できる指標設定を検討していきたいと考えています。
40	新型コロナウイルス感染拡大により、「ソーシャル・ディスタンシング」や「新たな生活様式への転換」が求められるなかで、イベント開催や環境学習機会の提供といった、多くの人々が集うことを良しとして設定していた取組みや指標は、発想の転換と大きな見直しが求められると思う。	パンデミックが引き起こす自然環境と人間の関わりへの影響については現時点で十分な知見がありませんが、計画に与える影響は長期的な視点で注視する必要があると考えます。気候変動に伴う感染症増加のリスクについては従前からIPCC等において指摘されていることから、気候変動への適応策の一つとして取り組む必要があると考えています。 また、環境学習機会については、Web 配信など人が集まらなくても実施できる形態を検討するなど、時代や社会の状況を踏まえた柔軟な対応が必要であると考えています。
41	新型コロナウイルスによる感染症のパンデミックはこれからの社会を大きく変容させていくような気がする。環境基本計画の大きな視点としても考慮していく必要が出てくるかもしれない。	

議事（４）温室効果ガス排出量の検証結果について（資料４）

	意見・質問等	回答
1	P3 の上段、黄色い囲みについて、約 200 千ｔ CO2 は約 220 千ｔ CO2 の間違いではないか。	ご指摘のとおり、修正します。

議事（５）令和元年版 浦安市第２次環境基本計画年次報告書及び概要版について

	意見・質問等	回答
1	境川 B 地点のみで、BOD の環境目標値未達のことが多い。年次報告書ではこの地点は東京湾や旧江戸川の水位によっては水門が開けず汚濁物質が堆積することが原因と記載されている。この地点は、他の調査地点と比べ SS、DO が共に高く、DO は年 4 回の測定値のいずれもが飽和酸素濃度以上（過飽和）となっている。理由として、酸素を発生する藻類が多く発生している可能性があるが、近隣住民からの苦情や問い合わせは無いのか。また、このエリアで、下水道未接続世帯があれば BOD 目標値未達の原因の一つである。	境川 B 地点における環境目標値が達成できなかった理由としては、水門の開閉が大きく影響していると考えられますが、ご指摘いただいた原因についても検証していく必要があり、目標値を達成できるよう対策を講じる必要があると考えています。
2	年次報告書の概要版の<平成 30 年度の資源の収集量>の表の資源ごみ収集の項に紙類（1,975ｔ）が記載されていない。また、資源回収の数値に布類が入っていないのであれば（紙類）と注記すれば、市の家庭からの紙類回収量の総量が分かる。また、紙類の資源回収量の経年傾向を把握するには、市による回収量と自治会等による資源回収量の合計量で行うべきである。	令和２年度版報告書〈概要版〉の作成の際には、紙類を記載します。 また、第３次環境基本計画において、施策の進捗を把握する際には、ご指摘いただいたとおりの方法で把握できるか検討してまいります。